

小規模事業者

# 経済動向調査報告書

<常陸大宮市>

2025年7月～9月期

常陸大宮市商工会

## 1. 目的

常陸大宮市内の小規模事業者の景気動向等を分析し、その詳細な実態を把握し、市内小規模事業者に開示することで、経営に活用していただく。

## 2. 方法

市内の製造業、建設業、小売・卸売業及びサービス業の小規模事業者から計 15 社をサンプルとして選出し、聞き取り調査を行う。

## 3. 調査事業者

業種 売上規模	製造業	建設業	小売・卸売業	サービス業	合計
~1,000 万円	1 社	0 社	3 社	2 社	6 社
~3,000 万円	0 社	1 社	1 社	1 社	3 社
~1 億円	1 社	1 社	0 社	1 社	3 社
~3 億円	0 社	2 社	1 社	0 社	3 社
合計	2 社	4 社	5 社	4 社	15 社

## 4. 調査項目

- ① 売上高、販売単価、利用客数、仕入単価、在庫数、採算（経常利益）、従業員、外部人材、資金繰り及び景況感を聴取し、DI 値を業種別・売上規模別に比較。
- ② 設備投資状況の調査。
- ③ 現在認識している問題点・経営課題について業種別・売上規模別を調査。

### DI（業況判断指数）

景気局面の判断や、予測と景気転換点の判断に利用される景気動向指標のひとつ。業況下や景況感といった明確に数値化しにくい対象を、比較化することで景況を判定する。

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものをパーセンテージで表し、プラスは良好、マイナスは悪化として、その度合いで判定する。

## I. DI 分析

表 1 : 2025 年 7 月～9 月の DI 値 (業種別)

	合計	製造業	建設業	小売・卸売業	サービス業
売上高	-60.0%	-50.0%	-50.0%	-80.0%	-50.0%
販売単価	-6.7%	0.0%	0.0%	20.0%	-50.0%
利用客数	-53.3%	0.0%	-50.0%	-60.0%	-75.0%
仕入単価	-66.7%	-50.0%	-75.0%	-60.0%	-75.0%
在庫数	-13.3%	0.0%	0.0%	-20.0%	-25.0%
経常利益	-60.0%	0.0%	-50.0%	-60.0%	-100.0%
従業員	6.7%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%
外部人材	-6.7%	0.0%	-25.0%	0.0%	0.0%
資金繰り	-46.7%	0.0%	-50.0%	-60.0%	-50.0%
景況感	-53.3%	-50.0%	-50.0%	-40.0%	-75.0%

表 2 : 2025 年 7 月～9 月の DI 値 (売上規模別)

	合計	～1千万円	～3千万円	～1億円	～3億円
売上高	-60.0%	-83.3%	-33.3%	-33.3%	-66.7%
販売単価	-6.7%	-16.7%	-33.3%	-33.3%	66.7%
利用客数	-53.3%	-50.0%	-66.7%	-33.3%	-66.7%
仕入単価	-66.7%	-83.3%	-66.7%	-66.7%	-33.3%
在庫数	-13.3%	-16.7%	-66.7%	0.0%	33.3%
経常利益	-60.0%	-83.3%	-66.7%	-33.3%	-33.3%
従業員	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
外部人材	-6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	-33.3%
資金繰り	-46.7%	-66.7%	-33.3%	-33.3%	-33.3%
景況感	-53.3%	-66.7%	-66.7%	-33.3%	-33.3%

- 前回 (2025 年 4 月～6 月) 調査と比較すると、全体的に大きく低下している様子が窺える。特に、売上高が顕著に低下しており、また資金繰りの悪化や景況感のさらなる悪化も目立つ。
- また、利用客数も減少傾向にあり、利用客の減少が売上高の低下に結びついているように窺える。
- 特に、サービス業においてその傾向が高く、利用客、売上高ともに大幅に低下している。さらに、経常利益、資金繰り、景況感も著しく低下しており、利用客の低下が売上高も引き下げ、さらに経常利益の低下で、資金繰りの悪化を招き、景況感を悪化させている悪化スパイラルが垣間見える。
- 建設業も業況悪化が顕著であり、前回の調査では売上高の改善も期待できたが、実際には低下させている。それが、経常利益、資金繰りや景況感の低下につながっているようだ。
- 売上規模別では、1 千万以下の小規模企業の業況悪化が著しく、前回に引き続きの低迷であり、売上高、仕入価格、経常利益が壊滅的なダメージを受けている様子が窺える。

## II. 課題意識調査

図1 2025年7月～9月の課題意識（業種別）

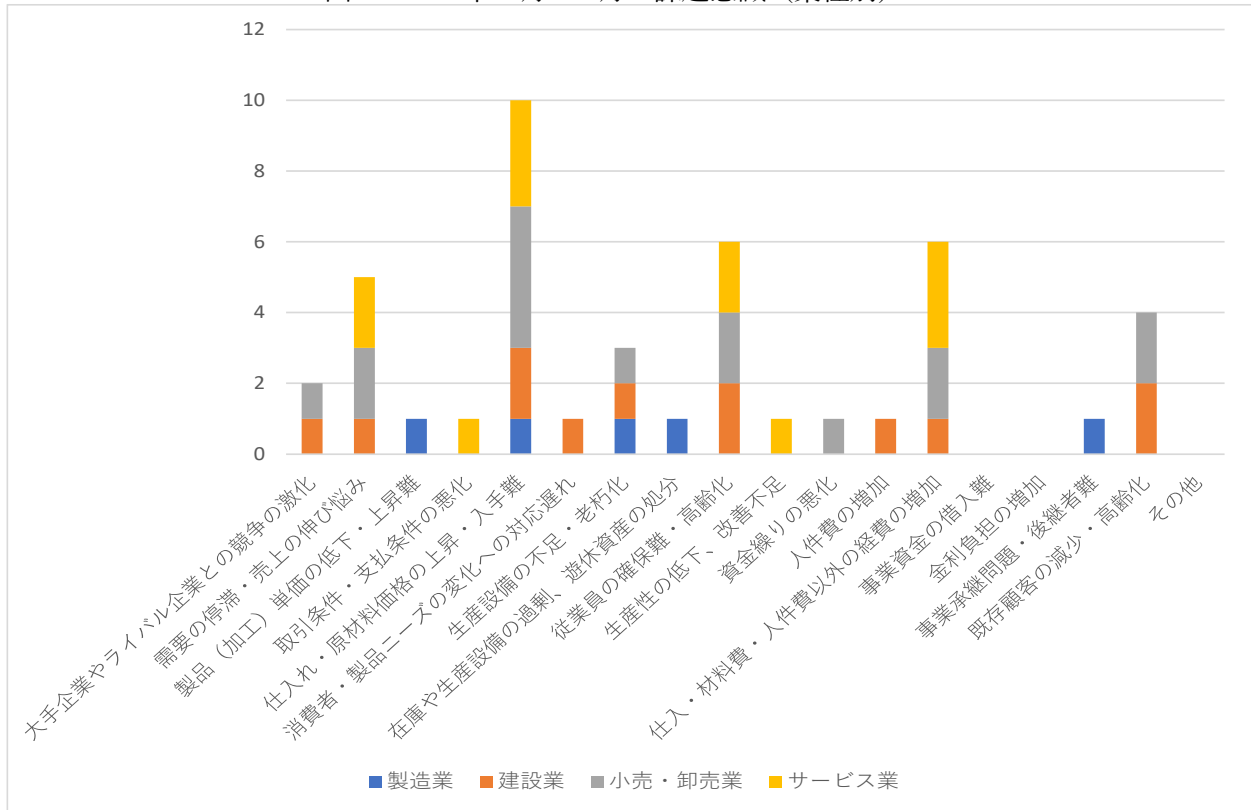
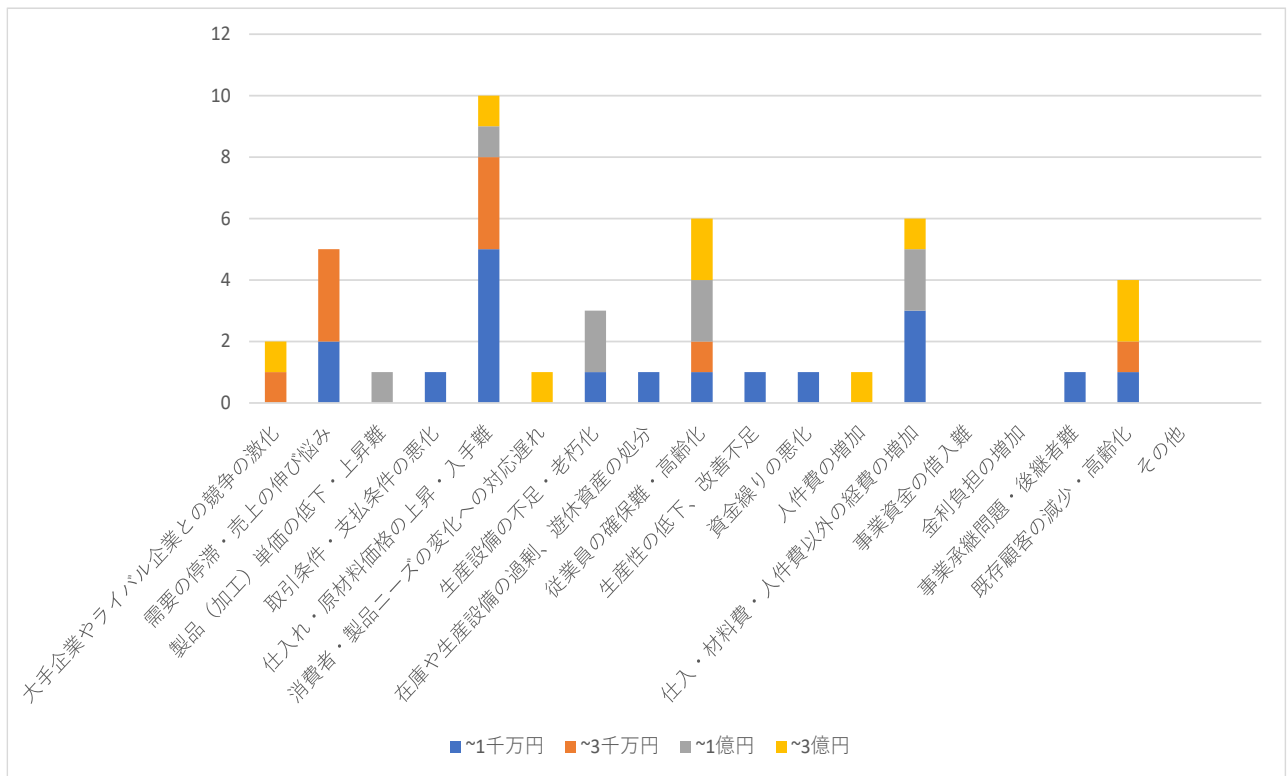


図2 2025年7月～9月の課題意識（売上規模別）



- 仕入れ・原材料価格の上昇・入手難については、相変わらず高止まりしている様子が窺える。
- 今回、従業員の確保難・老齢化を問題視している企業が増えている。特に、サービス業で増えており、売上高や経常利益が低迷する中で、労働生産性の低下が懸念される。
- また、需要の停滞・売上の伸び悩みを問題視している企業も増えており、特に1千万円以下及び3千万円以下の小規模企業で深刻になっている様子が窺える。さらに、仕入れ・原材料価格の上昇・入手難についても1千万円以下及び3千万円以下の小規模企業で多く、DI値でも1千万円以下の小規模企業の売上高、経常利益が著しく低迷しており、小規模企業ほど厳しい状況に置かれている様子が窺える。
- 前回同様に、従業員の確保難・老齢化については、比較的売上規模の大きい企業で問題視されているが、小規模企業においても徐々に増えている。

### III. 設備投資の状況

- 2025年7月～9月にかけて設備投資した企業は、前回に引き続き15件中2件あった。やはり少しずつ投資の気運が高まっている様子が窺える。
- 投資の内容は、OA機器と車両運搬具であった。

以上